令和 4 年度　　**自己評価・学校関係者評価報告書**

令和 5年 3月 31日
学校法人長者学園 認定こども園 長者幼稚園

1. 本園の教育目標
・たくましい子　思いやのある子

2. 本年度重点的に取組目標・計画
幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、一人ひとりの幼児を大切にした質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	**幼児教育要領の改訂を踏まえ、遊びを通して総合的な指導を行う上で、幼児期に育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育みたい姿」をふまえた指導の状況**	A	・全クラスティームティーチングの体制を取り、全保育者が園児の担任という意識で園児一人ひとりの理解に努めた。個々に応じた援助や発達を促す時期に合った活動を提供できた。 ・10の姿を意識した活動を意識し、子どもの姿に共感的理解をしながら、見守ったり援助したりすることで園児は友達と育ち合い意欲的に過ごすことができた。 ・今後も環境設定を工夫し、また職員間での連携を強化する為園内研修を多くもち、有効な時間の取り方や内容の充実を図りたい。
2	**遊びを通して総合的な指導を行う中で幼児に適した環境が整備されているか、安全状況に対する取り組み状況**	B	・本園の「わんぱくの森」や地域教育施設と連携し、五感を使った活動を通して、子どもの感性に響く環境を考えた遊びや活動を展開した。 ・コロナウィルス感染予防対策に手洗い、消毒、うがいの励行に努めた。また、定期的に除菌作業を行った。 ・登園、降園、園バスの運行時、給食等での危険回避のために「園児の安全・危機管理マニュアル総括表」を策定した。危機を予測することで組織的に、迅速に対応できた。 ・保護者引き渡し訓練を実施し、非常時の避難について確認した。さらに、停電時の連絡方法と引き渡しの改善が必要である。
3	**一人ひとりの幼児の発達の特性を理解し、教職員間で周知と発達に即した指導の取り組み状況**	A	・登園、降園時や参観日等で保護者と話し合う機会を増やすことにより、園児の情報が共有でき、一人一人に応じた関わり方ができた。 ・支援の必要な子どもや気になる子どもに関しては、職員の加配をし、保護者との面談や也関係機関と連携して情報を共有し、援助の充実を図った。（長期的対応、早急対応、保護者対応） ・発達に応じた「あそび」の提供や生活習慣の支援ができるよう、「架け橋期」の活動について推進していきたい。

評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理　　由
B	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、一人ひとりの幼児を大切にした質の高い教育を実践することができた。園児の安全・危機管理マニュアル総括表をもとに園児の安心・安全対策を徹底していきたい。

5. 今後の課題

	課　　題	具体的な取り組み方法
1	**園内研修**	・今後も「10の姿」を意識した活動を取り入れ、子どもの姿から10の姿を拾い上げ、保育教諭間での連携を強化する。 ・「架け橋プログラム」の理解と実践を軸に幼保小の連携を高める。
2	**安全管理**	コロナウイルス感染対策を日々怠る事なく安心して過ごす。 危機管理マニュアル等を理解し、意識の向上や改善を図る。
3	**環境**	園庭や室内の環境について話し合い、遊びが充実するように幼児の発達に沿った環境構成に取り組む。

6. 学校関係者評価委員会の評価

コロナ禍の中ではあるが、運営を吟味し、自然や実体験を通して園児を育む姿勢がよい。園児が楽しく登園している姿が見られたことは園の理想的な姿であると捉えたい。今年度も保護者との情報共有のためにICTを活用するなど、環境構成に新しいこころみが感じられた。今後も、子ども達の最善の学びについて考えながら、具体的活動を展開してほしい。各地で少子化となっているが、園の存続のために必要なことを考え、園を運営することに期待したい。